

私たちは信じています。

NOと言うことが、犬・猫の未来に希望を与えることを

NOと言うことが、犬・猫を愛する全ての人々にとって当たり前になることを

Say NOプロジェクトは知って広める動物愛護です。

動物愛護センターで殺処分されたり

パピーミルで酷使されている不幸な犬や猫を減らしたい。

しかし、愛護団体がいくら救護活動を行っても

不幸な犬や猫の数はなかなか減りません。

もし、【犬や猫を買う】という常識を変えることができるなら

不幸な犬や猫の数は減るのではないだろうか？

そのような思いから私たちは、知って・広めてもらう

Say NOプロジェクトを起ち上げました。

1

まず初めに、私たちはプロジェクトのスローガンを募集しました。

多くの方からご応募いただき、130件もの作品が集まりました。

Facebook等の投票により、その中から3作品を

プロジェクトのスローガンに決定させていただきました。

このスローガンを個人で広めていただいたり、プロジェクトのロゴを

企業や団体のノベルティグッズ等に使用していただくことで

Say NOプロジェクトを知ってもらおうと考えています。

2

犬や猫を迎えようと思った時

出会いを求め、家族で動物愛護センターや

シェルターを訪れるのが当たり前の光景になり

「昔は、仔犬や仔猫をお店で買っていたなんて信じられないね!」と

言えるような社会になるまで

Say NOプロジェクトを続けたいと考えています

皆様のご参加をお待ちしています!

知って広める動物愛護 Say NOプロジェクト サポーター募集中!

仔犬や仔猫がいつでも買える環境に【NO】という意思を広めることで

多くの尊い命を守ることができるはずです。

一緒に犬・猫の明るい未来を創るために【NO】という意思を広めてくださる

サポーターさんを募集しています。

【Say NOプロジェクト参加方法】

- Facebookの「いいね!」でお友達に広める

<https://www.facebook.com/203415516507407>



- ブログやホームページ等にリンクを貼って広める

<http://sayno.chobi.net/> (QRコード右下)

- Say NOプロジェクトのロゴをステッカーに印刷して身の回りの物に貼って広める

ロゴは下記サイトの「画像ダウンロードページ」にご用意しております。

- 企業・店舗・団体のノベルティグッズ等にロゴマークを使用して広める

(ご協力いただいた場合は、Say NOプロジェクトのHPに掲載させていただきます)

商品例▶

Say NOプロジェクト+ちばわんタイアップ商品
Say NOプロジェクトリフレクター-ちばわんオリジナル



バナーとロゴマークは下記サイトの「画像ダウンロードページ」にご用意しております。

 Say NO Project
<http://sayno.chobi.net/>



買わないことで救える命がある

NO!
生体販売



Say NO Project
<http://sayno.chobi.net/>

Say NOプロジェクトの目標

- ・パピーミル(仔犬・仔猫生産工場)で働かされる犬・猫を減らす
(※パピーミルについての説明は右頁をご覧ください)
- ・心身に傷を負わされる犬・猫を減らす
- ・捨てられる犬・猫を減らす
- ・殺処分される犬・猫を減らす

被害にあってしまった犬・猫を多くの動物愛護団体等が救出していますが、なかなかその頭数を減らすことができません。

動物愛護センターに収容された犬・猫を殺処分せず、再譲渡できるようなセンターの職員さんたちも努力されています。

しかし、新たに収容される頭数が譲渡数を上回るため、捨てられたり、持ち込まれる犬・猫の数が減らない限り、収容頭数は増える一方です。

もし、【犬・猫を買う】という常識を変えることができるなら、被害に遭う犬・猫の数は減るのではないのでしょうか？

売のために仔犬・仔猫を産ませる必要がなくなり、すぐに飽きて手放すような飼い主が犬・猫を買うこともなくなります。

幼いうちから親兄弟と離され、ショーケースに入れられることで、問題行動につながるような精神への悪影響を受けることもなくなるでしょう。

また、犬・猫の問題行動を知らずに購入した飼い主が、飼いきれずに処分するという選択をすることもなくなるはずです。

変えよう！ 「犬・猫を飼う」=「ペットショップで買う」の方程式を

「ペットショップがなくなったら犬や猫を飼いたくなったとき困る」という意見を聞きます。

日本では犬や猫を「買う」ことが当たり前になっているので、「ペットショップが無くなったらどうするのか？」という疑問が生じるのは仕方がないかもしれません。

でも、生体販売がなくなったら、本当に犬や猫を飼いたい人は、飼える方法を自力で調べるのではないのでしょうか。

もし、それが面倒なのであれば、本気で犬や猫を飼いたいのではないかもしれませんが、日本人は物が溢れている状態に慣れていて、いつでも何でも手に入る安心感を求めがちです。でも、欲しい物が簡単に手に入らない時こそ、「本当に必要かどうか」を見極められるのではないのでしょうか。

手に入れた後で「必要なかった」と気付くより、手にする前に気付いた方が、犬・猫はもとより人のためにもなるはずです。

「生体販売がなくなったら困る」と言う人には、「生体販売がなければ、本当に飼いたいのかどうか気付くことができますよ」と教えてあげましょう。

Say NOプロジェクト・スローガン

買わないことで救える命がある NO! 生体販売

買わずに飼いませんか？ 殺処分ゼロになるその日まで

ぼくの命に値札を貼らないで

この3種類のスローガンは、バナーやロゴのデザインと共にご自由に使っていただけます。 ※スローガンの文章は変更しないでください。使用スペースに応じて改行は可能です。

今回スローガンを募集したことにより、仔犬・仔猫がいつでも買える現在の環境に心を痛み、どうにかしたいと考えていらっしゃる方が予想以上に多いことを、改めて知ることができました。同時に、愛護センターや愛護団体はハードルが高く、「犬・猫を買わずに飼いたいのに譲ってもらえない」というケースが少なからずあることにも気付かされました。愛護センターや愛護団体が、もっと身近な存在となるよう、努力することが今後の課題であると痛感しました。

パピーミルとは？

【原因・現状】

売のための仔犬・仔猫を、幾度となく産まれ続けている犬・猫が存在します。犬・猫の繁殖を行なう人はすべて【ブリーダー】と呼ばれていますが、主に【シリアスブリーダー】と【パピーミル】の2つに分けられます。

【シリアスブリーダー】は、特定の品種の良さを引き出す組み合わせを考えながら交配し、生まれた仔犬・仔猫が心身共に健康に育つように細心のケアを行ないます。しかし、このような繁殖には多額の費用がかかり、利益が少ないため、現在の日本では非常に少数です。一方【パピーミル】では、犬・猫は可愛がるものではなく、繁殖の道具としてとらえています。仔犬・仔猫という商品を生み出す「物」として扱い、単に商品を生産する「機械」でしかありません。

生まれた仔犬や仔猫はどんどん市場に出回ります。売れるとまた新しい仔が補充されますが、当然売れ残る仔も出てきます。また、犬・猫1頭当たりの生産性には限りがあり、効率を上げるにはたくさんの母体が必要になります。

頭数が多くなれば、その分費用がかかることになります。しかし、費用をカットしても、繁殖用の犬・猫は命ある限り仔犬・仔猫を産み続けます。

現在の日本のペット市場は、パピーミルが支えていると言っても過言ではありません。パピーミルの「パピー」は仔犬、「ミル」は工場と言う意味ですが、日本ではこのような繁殖が一般の家庭でも行なわれています。

【問題点】

パピーミル業者に、
「なぜ犬・猫に無理をさせてまで産ませるのか？」と尋ねたら、

「多くの人が仔犬・仔猫を欲しがるからだ」

と答えるのではないのでしょうか。

「なぜ、不衛生で栄養状態も悪い環境で産ませるのか？」

と尋ねたら

「買う人は、売られている仔犬や仔猫に興味があるだけで、親がどんな状態であろうと気にしない」と、答えるかもしれません。

見えない部分を見えないままにしていると、さらに深い闇を作り出し、繁殖用の犬・猫たちがおかれた過酷な状況を悪化させて

しまうことになります。

犬・猫の繁殖には試験もなければ、特別な資格もいりません。

行政に申請、許可を受ければ誰でも繁殖できます。不衛生な状態で繁殖を行なっても、注意を受ける程度で登録が抹消されることはほとんどありません。

近年、規制は強化されてきましたが、いつでも仔犬・仔猫を買える環境が必要とされる限り、パピーミルはなくなりません。

【わたしたちができること】

できることはたくさんあります。

まずは「パピーミル」をネットで検索してみてください。

目にしたくない光景が映し出されるかもしれません。でも、どうか目をそらさず、犬や猫たちの声なき声に耳を傾けてください。

そして、皆さんの身近な人や大切な人に、酷使されている犬・猫たちの存在を伝えてあげてください。

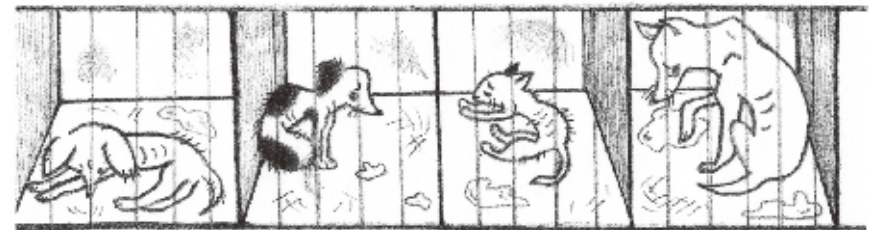
それが現状を変える最初の一步です。

できることは人それぞれですが、「伝えること」はきっと誰でもできるはずです。

Say NO プロジェクトは、知って・伝えて・広めることで、日本の犬・猫の未来を明るくする活動です。

もし、苦しんでいる犬・猫のために何かしたいと思われるなら、Say NO プロジェクトに参加して一緒に犬猫の未来を変えていきましょう。

(参加方法についてはリーフレット裏面をご覧ください)



「パピーミルの親犬親猫たち」 © といかや「ペットショップにいくまえに」http://bikke.jp/pet-ikumae/